



藤中だより

保護者・地域に信頼される学校を目指して

〈目指す生徒像〉

- よく考え工夫して学ぶ生徒(知)
- 人と自分を大切にする生徒(徳)
- 心と体を粘り強く鍛える生徒(体)

令和8年6月1日 校長 竹田 聡

5月は寒暖差が大きく、体調を整えづらい日が続きましたが、保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

5月20日(水)の「ふれ合い除草」では、学校応援団を中心にご協力をいただきありがとうございました。樹木選定が進んだこともあり、明るく整った環境で体育祭を行うことができました。

5月23日(土)に開催した体育祭には、たくさんのご家族、地域の方、卒業生にご来場いただき、心温まる応援が子どもたちの大きな力になりました。心より感謝申し上げます。

中間テストも終わり、6月は運動部の3年生にとって、最後の大会「学校総合体育大会」があります。鶴ヶ島市では大会2週間前から朝練習、土日両日の練習ができます。大会をベストコンディションで迎えらるるよう、健康管理を始め、ご家庭のご協力をよろしくお願い致します。

<5月23日(土) 第48回藤中体育祭を終えて>

前々日、前日と雨が降り、前日までの準備はほとんどできませんでした。ただ、生徒応援席のテントは、天気予報から熱中症の危険性が低いため、設置しない判断を早めました。

当日の朝、7時20分頃から準備に取りかかり、間に合うか心配しましたが、係の生徒の頑張りのおかげで、定刻に始めることができました。藤中生は、行事に慣れているというか、手伝う人が必ずいて嬉しく思います。

開会式で私は、次の3点を話しました。

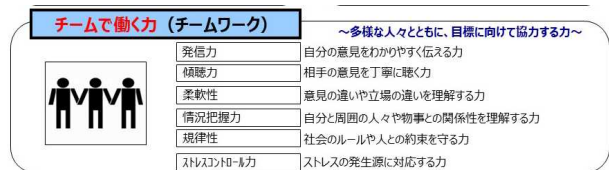
1つ目は、朝早くから来て準備をしてくれた生徒・先生への感謝です。おかげで予定通りに始められました。ありがとうございます。

2つ目は、予行でも話したように、「全種目全員参加」、選手・係・応援のどれかの活動が必ずあります。行事はLIVEです。動と静のメリハリをつけて応援をお願いします。

3つ目は、やる以上は勝つことを目指して頑張りましょう。でも、勝つことは本気になるための手段、ツールで、目的は仲間の「よさ」を見つけることです。体育祭を通して、お互いの「よさ」をたくさん見つけましょう。

体育祭は、健康安全・体育的な行事にあたります。そのねらいの一部を抜粋すると、「体育的な集団活動を通して、心身ともに健全な生活の実践に必要な習慣や態度を育成する。さらに、生徒が運動に親しみ、楽しさを味わえるようにするとともに体力の向上を図る。」とあります。そして、育む資質・能力は、「運動することのよさについて考え、集団で協力して取り組むことができるようにする。」とあります。

私は「集団で協力して取り組むこと」を通し、身に付ける能力として、「社会人基礎力」のチームで働く力(チームワーク)を参考にしています。



チームで働くために、「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」の7つの能力が挙げられています。

例えばチームで働くためには、自分の考えを分かりやすく発信し、相手の意見を丁寧に聞き取り、折り合いをつける柔軟性が必要です。そして、ルールや約束を守り、現状を正しく把握し、対処することで信頼関係が育まれます。これらの過程で、思い通りにいかないストレス等に対して、原因をよく考えて、落ち着いて対応することが大切になります。もしも、お子さんが集団活動において「ストレス」を感じるがありましたら、どの能力に課題があるのか一緒に考えてください。その際、子どもの「挑戦」を支え、後押しするようにお願いします。

今年度も5つの応援団を中心に、大きな声援が響き、藤中らしい体育祭となりました。保護者の皆様には、当日の運営等にご協力いただき、ありがとうございました。

体育祭の結果		1年	2年	3年
学年優勝		1組	1組	5組
全員参加種目	学年種目	1組	4組	5組
	長縄跳び	1組	1組	1組
	クラスレー	1組	4組	5組

<学力が伸びた生徒と不安を抱えた生徒>

今年度最初の定期テストが終わりました。お子さんはどのような取組でしたか。また、ご家庭では、どのような応援をされましたか。

私がこれまで見てきた生徒で、「学力が伸びた生徒」と「学習に不安や悩みを抱えた生徒」の傾向をまとめましたので、参考にしてください。

【学力が伸びた生徒の傾向】

間違いをそのままにしない

同じ間違いをしない生徒は、伸びていました。そのために、「なぜ間違えたのか」と原因を理解して対処していました。

間違えた原因は人それぞれですが、問題を理解できない場合、自分で解決するのは困難です。先生や友達に聞くように勧めてください。

定期的に復習をする

テストを定期的に見返すなど、復習をしていた生徒は、記憶が定着して、着実に伸びました。

記憶には短期記憶と長期記憶があります。文字通り、すぐに忘れてしまう記憶と長年にわたって保持される記憶です。記憶は、脳の内側にある海馬に入り、何もしなければすぐに消えます。記憶が消える前に処理や整理をすると大脳に長期記憶として保存されます。その際、睡眠も大切な役割をしています。

定期テストを2週間後、1ヶ月後に見返して、長期記憶となるまで、復習を勧めてください。

実力を発揮する作戦がある

伸びた生徒は、テストを解き始める前に、問題全体を把握し、どこから解くのか、「この問題は○分使う。」などの作戦を立てていました。

実力を発揮するとは、できる問題を確実に解くことです。テストには制限時間があります。難しい問題に時間をとられて、できるはずの問題を解く時間が無くなることがあります。

ご家庭でも、問題を解いた順番と、かかった時間を聞き、受け方の改善策を考えてください。

基礎・基本を大切にしている

伸びた生徒は、各教科の基礎・基本が速くて正確でした。前述の作戦にも共通しますが、例えば、読み書き計算が速くて正確なら、それだけ考える時間ができます。

基礎・基本は、コツコツと毎日取り組むことで徐々に成果が出てきます。このことは、特に家庭学習で取り組んでほしいことです。時間を決めて毎日続けるように、声をかけてください。

テストと同じ状況で練習する

定期テストに近い状態で、勉強した生徒は、伸びていました。具体的には、図書館や自習室など、静かな場所で問題を解いていました。

部活動でも大会に向けて練習試合を行います。それと同じように、テストに近い状況で勉強する時間を作るように勧めてください。

切り替えが早い

間違いや失敗に対して大らかというか、「次にできればいいや。」くらいの感じで、あまり引きずらない生徒は、伸びていました。終わったことよりも、次に向けて、ポジティブに切り替えていました。間違いや失敗を、次に生かす「経験」と考えていたようです。

ご家庭でも、結果にクヨクヨしていたら、次に目を向けるように声をかけてください。

【学習に不安や悩みを抱えた生徒の傾向】

相対的な目標への不安

平均点を超えることや、順位を目標にした生徒の方が、不安を強く抱えていました。また、今は順調に思えても、進学先で伸び悩み、自信を失う生徒もいました。

平均点や順位は相対的で、自分ではコントロールできないことです。これは「偏差値」も同じです。ご家庭でも、頑張った目安として、平均点や順位を活用するようにしてください。

比べられる、否定的な言葉への不安

「○○はもっとできたのに～」と比較されたり、「何でできないの?!」、「こんな成績じゃ□□に受からない!!」と否定的な言葉をかけられたりした生徒は、不安や悩みを抱えていました。中には、学習を諦めてしまう生徒もいました。

人と比べられたり、否定的な言葉をかけられたりすれば、劣等感や不快感をもちます。

悩みや不安を解消するためには、相談することが大切です。私たち大人も、悩んだときに、最後まで話を聞いて、親身になってくれる人に相談すると思います。お子さんが相談しやすいように、話をさえぎったり、怒ったりしないようにしてください。

今は思い通りにいなくても、学び続ければチャンスはあります。お子さんの本音をしっかりと聴き取り、サポートしてください。

「なぜ学ぶのか？」と聞かれたら

私は、作家の村上 龍さんのコラムを参考にしています。大人には手厳しいコメントですが、的を射ていると思いますので紹介します。

子どもが「なぜ勉強するのか」と疑問をもつことは、大人社会の敗北である。勉強する理由は、大人の姿勢の中に答えがある。勉強を続けている大人が、「楽しそうに」「充実して」生きていることが分かれば、子どもは疑問に思わない。勉強が必要なのは、大人になって有利に生きるため。資格も技能もない人は、非常に時給の低い仕事しかない。これが現実。

なぜ、「勉強しなければいけないのか」という問いに答えにくいのは、その問いに甘えが含まれているから。勉強は自分のためにするもので、親や教師のためにするものではない。問いそのものが矛盾している。なぜ食事をとるのか、呼吸をするのかという質問に似ている。「わたしはなぜ勉強したくないのか」という問いに変えて考えてみるとよい。